



APOLLO  
MEDICAL HOLDINGS

# 海外研修だより

～薬剤師だって、空を飛ぶ～



## 視察内容

### 視察地：ニュージーランド

日程：2015年10月25日～10月31日

10/25(日)

成田空港18:30発→オークランド空港(機内泊) ※時差+4時間  
フライト時間10:45



10/26(月)

オークランド空港(北島)11:10発→クライストチャーチ空港(南島)  
→ダニーデン空港(南島)14:20着  
ダニーデン市内観光、レイモンド氏自宅/放牧場訪問



10/27(火)

ダニーデン市長表敬訪問  
オタゴ大学にて終日研修

10/28(水)

ダニーデン→クイーンズタウンへ車で移動(所要時間約4時間)  
道中、レイモンド氏知人のワイナリーを訪問



10/29(木)

クイーンズタウンにて終日自由行動

10/30(金)

午前中 自由行動  
クイーンズタウン空港(南島)16:40発→オークランド空港(北島)18:30着  
UMFマヌカハニー協会会長、マオリ族のロブ氏と会食

10/31(土)

オークランド空港9:55発→成田空港16:55着 ※時差-4時間  
フライト時間11:00 解散



# 視察内容

## ■NZの薬剤師の業務内容、医療サービス

限られた予算内で管理されている医療システムがNZでは特徴的だが、業界外の人にも容易に理解できるシステムを構築し、より多くの予算を獲得・サービスを充実させようとしている理念に基づいている。

【Medicines Adherence】服用アドヒアランス(コンプライアンス)の徹底を図るための業務レベル

1) LTC Service (Long-Term Conditions) ⇒長期的な健康管理サービス  
日本で言う、コンプライアンス向上のための一包化調剤、残薬管理、服薬指導など。  
与薬されるべき薬が薬局に残置薬としてあった場合には患者に必ず連絡をとる。そのまま放置された場合、それだけ予算が無駄になり、薬剤師の管理責任が問われる。

2) MUR Service (Medicines Use Review)  
日本の歴管算定条件の内容に一番近いと思われる。  
患者からのあらゆる相談を受け入れ、治療方針の理解を促したり、服用状況、併用薬、副作用などの確認、場合によって疑義照会を行なう。

【Medicines Optimization】薬の有用性を判断するための業務レベル

3) CPAMS (Community Pharmacy Anti-coagulation Management Service)  
最近認められるようになった薬剤師業務。特別な資格がなくとも、抗凝固薬のPT-INRを測定し、適正用量の提案(GPに対して)ができる。ただし、実施にはGPの同意と自治体へ届出が必要。

4) MTA Service (Medicines Therapy Assessment)  
薬物治療の評価を行う。プラス2年間の医学知識を積んだ薬剤師は、了解を得た患者について、カルテを閲覧することができる(次項のCMMにあたる)。服用中の薬についてはモニタリングを実施し、効果の評価を行ない、その結果はCMMを通してフィードバックできる。

5) CMM (Comprehensive Medicines Management)  
包括的薬剤管理システム。  
日本でいう薬歴と病院のカルテが、全てつながっているイメージ。このシステムの存在により、複数の医療機関がその患者に係る情報をシェアできるため、無駄な医療を省くことができ、かつ効率的に治療を進めることができる。

## 参加者からの感想

NZの医療については、この研修がなければ意識したことは無かったと思います。講義やNZの方と触れ合うなかで何よりも感じたことは、国全体に、健康的に人生を送ることを大切にする価値観が浸透しているという事でした。健康や医療に係る政治・行政も活発で、国民の関心が非常に高いようです。故に、よい循環がもたらされ、医療の質も日々向上できているのだと思います。NZの薬剤師は、いま日本の薬剤師が求められている“かかりつけ薬剤師”に近い存在のようで、非常に勉強になりました。今後の自身の業務に活かしていけるよう、努力したいです。

